



おいしそうに頬張る東雲中学校の生徒

食べて応援!買って応援!地産地消!!

比内地鶏部会・ニツ井営農センター

6月19日の食育の日に、市立東雲中学校で「比内地鶏の親子丼」が学校給食に提供されました。県畜産振興課が農水省の事業を活用し、コロナ禍の影響で売上げが落ち込む県産畜産物を支援して県内消費の拡大を図ることが目的。

給食時間前に校内放送を使って、比内地鶏部会の今野武義部会長は「比内地鶏は、県を代表する特産物であり、食品産業や観光面と結びついた重要な地域資源。どうか大人になっても、郷土の誇りとして比内地鶏を応援して下さい」と呼びかけました。

同校3年佐藤奏汰さんは「噛むたびに甘みが増し、いつもの鶏肉と違った。家でも比内地鶏料理をたくさん食べたいと親にお願いしてみる。」と綺麗に完食された器を見せてくれました。



報道関係者もいっぱい美味しく味わえたかな…?

いよいよスタート「白神ねぎ」出荷前に再確認 白神ねぎ 20億円販売達成プロジェクト

ねぎ部会（大塚和浩部会長）は夏ねぎ現地巡回講習会を白神ねぎ生産者や、秋田県農業試験場の担当者ら約40名が参加して6月17日に開催しました。

大塚部会長は「今年は、オリンピック需要による高値販売を期待していたが、コロナ禍において延期となった。コロナ禍の影響による需要落ち込みが心配されるが、我々生産者は常に高品質な「白神ねぎ」を出荷することだけに集中して、夏ねぎから秋冬ねぎとこれからの正念場。しっかり頑張ってください。」と生産者に呼びかけました。

関係機関から軟腐病防除対策や、除草剤の使用法の再確認等について説明があり、参加者は熱心に聴講していました。



生産者間でも意見交換しながら理解を深めていました。

熱中症対策も万全に頑張ります!

園芸部会、営農部

園芸部会（畑山悦雄部会長）は、6月18日スナップエンドウ現地栽培講習会と目揃え会を開催しました。

スナップエンドウ生産者や、JA全農あきた、市農業技術センター職員など約30名が参加し、生育状況や病害虫防除の徹底、出荷規格を確認し共通認識を図りました。

生産者の池端伸吾さんは「今日再確認出来たことを活かして高規格のスナップエンドウをどんどん出荷して行きたい。これからどんどん気温が上昇し、他青果物での作業も屋外作業が中心となる中、他生産者と声を掛け合いながら、熱中症対策も万全にして頑張っていきたい。」と話してくれました。

生育状況を確認する生産者と営農指導員



来月のあなたの運勢（2020年8月）



牡羊座

(3・21~4・19)

運勢は良好。見晴らしのいい場所で深呼吸を。良いパワーを取り込みます。残暑見舞いなど手紙を出すのも吉

2020.7月号

しらかみ

